

ヤマハ マリン ニュース

YAMAHA MARINE NEWS no. 63 '88-11

特集
いま、ホットに商戦





七五三

11月15日は七五三のお宮詣りの日。女子七歳は、「七歳にして男女席を同じゅうせず」の言葉があるように、型のうえでの男女、社会的意識をうえつけたものです。男子五歳は、はじめて袴をつける慣習がいまに至ったもの。男女三歳は、少年期へ成長するわが子を思う、親心の現れといわれています。

冬至

12月22日、北半球では最も日の短かいのがこ

の日。そしてこの日を境に日脚が伸びることから、各地でそれぞれの行事を行います。風邪をひかないとあって、お風呂に柚子を入れる習慣は全国的に知られています。ちなみに南半球のマリンスポーツ王国、オーストラリアでは1年でいちばん日の長い日となります。

プレゼント

日頃お世話になっている人たちに感謝の意を込めて贈り物をするのが「お歳暮」。金額ではなく、真心を込めてお客さまに何かプレゼントするのもいいでしょう。プレゼントといえ

ば、クリスマスももうすぐ。お店独自の方法で、楽しい催事を企画されてはいかがですか。

大晦日

お店の大掃除はこの日までに済ませましょう。この年、1年間の思い出、喜び、反省など、もう1度思い起こして、来る年への指針とします。あとは仕事を忘れて、お正月までゆっくり過ごしてください。

MARINE RESORT SPOT

ねむさと
「合歓の郷」

三重県志摩郡浜島町大崎半島
☎05995-2-1111

三重県志摩郡にある「合歓の郷」は、壮大なスケールのもとに展開されている景観豊かなリゾートです。ここでは、ありとあらゆるスポーツが楽しめると共に、鳥苑、果樹園やサボテン温室などの施設の充実ぶりが大好評です。もちろんスポーツは、テニスやグラススキーなどのフィールドプレイ、スポーツカート、トライアルバイクなどのモータープレイ、ヨットやセイルボード、マリンジェットなどのマリンプレイと、豊富なメニューが用意されています。

また宿泊施設も、用途やスタイルによってヴィラゾーン、ホテル合歓ゾーン、ヤングビレッジゾーンから選ぶことができます。そして忘れてはならないのが料理。近海で獲れる新鮮な魚介類、松阪の牛肉、合歓の専用農場で育てられる鹿、雉、鴨、ホロホロ鳥からつくられるヤマハ料理人のオリジナルメニューの数々。ここ合歓の郷は、心の贅沢を楽しむ味わう人達のためのリゾートです。

【施設概要】

- 開設年月：昭和42年11月
- 施設総面積：230000㎡
- 主施設：ヴィラ(30棟60室)、ホテル合歓、ヤングビレッジ、テニスコート(全天候型9面・ナイター設備5面、グリーンサンドコート5面)、スポーツスタジアム(15000㎡)、ビーチサイドプール、アクアパーク(ウォータースライダーなど)、ゴルフ練習場(230m16打席)、ゴルフコース('89年秋本格的チャンピオンコースとして誕生予定)、レコーディングスタジオ、屋内・外ホール等



和船・船外機が店頭と並んだ〈マリン北上〉(株)の店舗。いまはちょうど納艇が重なっているため船は少ないようで、ちょっと前までは店舗が隠れるほどに和船が並んでいたそうです



いまホットに商戦

特別機装中のW 25



整備士の免許も持っているという松谷専務。「手が足りなければやったりもしますが、今はほとんど口も出しません。任せっ切りにしないと責任感がなくなるし、おもしろくなくなってしまうでしょ」



二代目・三代目の新・漁師さんにアタック

宮城県石巻市東中里 マリン北上株式会社(松谷 武専務)

獲る漁業から育てる漁業へ、その流れを積極的に活用し、商売に結びつける。またウォーターフロントといった時代のキーワードを一過性のマリンブームの現象としてでなく、新規ユーザーの掘りおこしにいかにか活かしているか——今回はそうした活動を果敢に展開しているお店をたずねてみました。

仙台からJR仙石線で約2時間、その終着駅である石巻駅から車で5分、駅前通りから続く賑やかなバイパスからちょっとはずれたところに、マリン北上株式会社の店舗がありました。

「この場所に来て10年、合同庁舎のとなりの店ということで、地元にはもうすっかり定着しています」と松谷専務が話してくれました。

マリン北上(株)さんの商圏である支津川から牡鹿、石巻、矢本、そして塩釜という一帯は育てる漁業、いわば養殖漁業が盛んなところとして知られています。

銀サケ、カキ、ノリ、ワカメ、そしてウニ、ホタテ、アワビ……松谷専務はいくつも数えあげてくれました。こうした傾向は年々強くなっており、なかでも銀サケは漁獲高日本一を誇っています。

「県の水産試験場が中心となって推進しているため魚種も豊富で、水揚げも安定しているようです。だから、漁師さんの高齢化にもなう沈滞モードのようなものはありません。二代目、三代目にうまく繋がっています」と現状をとらえる松谷専務は、それをどのようにご商売に結びつけているのでしょうか。

「若い人は衝動買いに近い買いものをする。となりが大型化したから、じゃウチも、ぐらいのきつかけで話しがくこともあります。逆にいうと、そのとなりにどう売りこむ

「プロフィール」マリンセクションとしてスタートしたのは昭和36年のことで、マリン北上(株)として独立してから今年で10年目を迎える。100%業務需要であり、和船、船外機とも大型化傾向にあるという。塩釜の営業所を含めて総勢9名。石巻の本社屋は250坪の土地に事務所と工場が50坪を占める。養殖漁業の増加傾向にあわせて売り上げ拡大に全力を注いでいる。

かということですね」松谷専務は、スタッフの管理、確実なサービス、そしてきめ細かなコミュニケーションを実践しているそうです。マリン北上(株)さんのスタッフは現在8名で、うち営業は4名です。

「現場は全て担当者任せ。それは月2回おこなっているミーティングを励行しているからできることなのだと思います。上下という管理体制ではなく、全員のコミュニケーションがはかれる場であり、情報交換の場であり、刺激しあう場になっているようです」とミーティングの効果話してくれました。こうした営業面とあわせて力を入れているのがサービス体制です。

「育てる漁業の発展は、いわば漁師さんのサラリーマン化を同時に促進しています」松谷専務の話は、つまり、漁業の近代化は漁獲量のある程度計算できるようになり、それは休漁日を定期的に、しかも確実にとれるよう

になったということです。

「だから仮にトラブルがあればただちに修理するか、替船を提供する。そうした体制があるという安心感は、大きな信頼となっております。お客さまをひきつけているように思います。もちろんサービス体制は今にはじまったことではありませんが、そのもつ意味は、少しずつ変わってきているようです」

● マリン北上様さんは年末に配布する'89年のカレンダーを1000枚オーダーしました。営業スタッフ1人当り250枚平均です。「使い方はそれぞれですが、きちんとしてお

なりましたということです。」

きたいのは単協です。支津川から塩釜まで約20の漁協がありますが、きちんとしたお付き合いを心がけています。新しい和船の導入キヤンペーンのチラシやポスターなどを貼り出すときはばかり顔を出していたのでは、それはいい顔してもらえませんか」と漁師さんばかりでなく、地域に根づいたお付き合いを強調します。

「支津川から塩釜までのヤマハのシェアは、和船なら50%、船外機なら90%は固い、これも野村モーターズ様さんと、ガッチリとスクラムをくんでいるからだよ」と松谷専務は話しを結んでくれました。



ゲレンデ・艇庫の確保で飛躍的な販売台数の伸びを実現

愛知県西尾市 (知多ラングリミット(亀井義孝社長))

ゲレンデ・艇庫の確保がまず先決

「ダイビングショップにダイビングプールがあつて当然であるように、マリッジェットを売る店は、やはり乗る場所、ゲレンデを確保しなくては……」(知多ラングリミットの亀井義孝社長は、まず最初にこう話してくれました。

愛知県西尾市の名鉄西尾駅からクルマで3分、国道沿いにお店を構える知多ラングリミットさんは、昭和42年、ダイビングショップとしてご商売を始めました。現在は、西尾にある本店と、半田店、岡崎店、そして福井にはタンクレンタルの拠点をもっています。マリッジェットを導入したのは、「ダイビングのお客さまにより楽しんで頂くために……」と、思考を180度変えた積極的な展開を始めたのがきっかけです。昭和62年のことでした。そしてこの時、亀井社長が真っ先に考えたのが、ゲレンデ作りだったのです。お店にダイビングプールをもつ知多ラングリミットさんにとって、マリッジェットに乗るためのゲレンデ作りは、きわめて自然な発想だったのです。

「プロフィール」愛知県西尾市にある知多ラングリミットさんは、昭和42年にダイビングショップとして創業。ダイビングのお客さまにより楽しんでいただくことと、昭和62年にマリッジェットを導入。斬新なアイデアで販路を拡大。年間およそ50台を販売。また、レース、イベント等も活発に開催し、常にお客さまを楽しませている。本店の店舗面積は1000坪、専用ゲレンデと艇庫を保有する。

ラングリミットさんのマリッジェットゲレンデが西浦に誕生しました。浜には大型コンテナ製の艇庫が並び、運搬の手間を省いている点にも注目です。そしてこのゲレンデ・艇庫が、今春からのご商売のベースになってきたのです。マリッジェットは、移動型のマリンスポーツとは言え、なかなか運搬に手間取るのも現実です。専用トラックやワゴンを所有するのは費用もかかります。ゲレンデがあり、目の前には艇庫もある……こんなに理想的な環境は全国的にも珍しいでしょう。販売台数の伸びは、ゲレンデの存在が大きく関わっているようです。買ったはいいけど、どこで乗ろうか」という状況は、この知多ラングリミット



昭和62年の冬、各方面の協力を得て、知多

さまざまな意味を持つイベント開催。メンバー間の親ほくが深まるだけでなく、お店の活動を外に強くアピールする



店内は明るく、見るだけでも楽しい雰囲気だ



全国的に注目を浴びるMJレベル認定ライセンスカードの発行

ットさんのお客さまに関しては、あり得ないことなのです。ゲレンデの確保は今後、マリ

ンジェットを販売する上で最重要項目の1つとなるでしょう。



さて、活動のベースがキープできたら今度は、いかにそこを有効に活用するかがポイントです。亀井社長は、

ここでもダイビングシ

ョップ経営で得たノウハウをマリッジェットにフィードバックさせ、斬新なアイデアを次々と生み出しています。

「リミット・レーシング・アソシエーション」はそのうちの1つです。マリッジェットのオーナーさんを中心としたクラブ組織で、現在およそ50名のオーナーさんとオーナーさんの友人関係などで構成されています。2人乗りができるマリッジェットだからこそ、オーナーでなくとも活発に活動ができるのです。そして、ここで注目したいのが、MJレベル認定ライセンスの存在です。全国的にも非常に珍しい、知多ラングリミットさん独自のシステムですが、これはマリッジェットの操縦技術や整備技術から判断してA級からD級までの4段階でライセンスカードを発行しているというものです。「果たして自分のウデがどのくらいのレベルなのか、ある程度到達してきたオーナーさんは、そんなことを気にするようになるものです。むやみに乗っているだけでは、やはり飽きてきます。何か目標を与えてやることもやはり必要でしょう。それもあまり高い目標ではないけません。レース等のイベントを開催する時も、同クラスの者同志を走らせれば、運営する側も安心だし常に話題づくりを欠かせないこと社長自ら遊びのリーダーシップをとっています。

走る人たちが、きっとおもしろいはずですから……」とオーナー心理を読み取るあたり、自ら率先してマリッジェットに乗っているだけのことはあります。

知多ラングリミットさんのマリッジェットのオーナーさんたちは、当初の頃は、やはりダイビングのお客さまにマリッジェットのお客さま、というパターンから出発したそうですが、この点で良かったことは、「お客さん同志の親ほく、お店とのつながりがすでにできあがっていたということでしょう。毎週のように浜に出てバーベキューをしたり、ツーリング、イベント等に友達を連れて参加、そしてメンバーに」というパターンが多いのも特徴だそう。そして徐々に新規のお客さまを獲得してきました。若いスタッフと明るい店内（半田店と岡崎店の店長さんは女性です）、そして常に海に出て皆で楽しく乗っているのを見せているからでしょう。「お店の存在を意識させることは、新しいお客さんを獲得する上でとても大事です。楽しくやっていると見せることが最も良いのではないでしょう」とまず、楽しみを伝えることが大事と、亀井社長は話してくれました。イベント、レースを開催することもその1つと言えます。定期的にこれらを開催することにより、メンバー間の親ほくや横のつながりがより一層深まるのです。

きちんと整理されたアルバムには、マリッジェットと共にたくさん笑顔が写っていたのがとても印象的でした。

さて、ダイビングの「ノリ」で冬の海に対する「寒さ」にある程度の慣れを持ったお客さまが多いため、比較的冬でも稼働中のマリッジェットが多いのが知多ラングリミットさ

お客さんから電話があればどこまでも……ま
めなサービスがこの商売の決め手だ



ご長男の覚さんはいま20歳。これからのマリ
ン業界を担っていく若者の1人



大阪・堺市の泉ポートさんはご家族3人でご商売を展開

新規ユーザーの獲得と万全のアフターサービスに全力投球!

んの特徴ですが、やはり夏ほどではありません。亀井社長は、オンシーズンの行動力、そして冬場の企画力と、冬をもつぱら種時きの時期としています。

今年の冬、まずはアフターケアを徹底します、これは主に冬の間にしばらくお休みするマリジェットが来春また好調に動くように整備するのです。『格納点検』と呼んでいます。また、メンテナンスの講習会を希望者が集まった時点で開き、基本的な整備技術の普及を

図っています。新たな拠点づくりも急がねばなりません。今ある西浦のケレンデ・艇庫が一杯になってきたのです。「ベースがあつての伸び。昨年の冬同様今年冬の冬は来春のための下地づくりが欠かせませんね」と亀井社長は言いました。そして「常に新しい企画づくりも大事な仕事です。すでに地元観光協会と協力したマリジェットをメインとしたイベント作りがすすんでいます」と、今年開いた2つのイベントの成功をもとに来年はさら

なる飛躍を目指しています。今後の展開としては、「リゾート展開が必要ではないでしょうか。チャーター、レンタルシステムを確立していきたいですね。できればバスツアーなども実施していきたいと思っています」

企画力と行動力による販路拡大

亀井社長は今冬、どんな新企画を練り上げるのでしょうか。マリジェットはまだまだ

未知の部分が多い世界。積極的にご商売を展開していくことで、これからどんどん伸びていく可能性ががあります。年間新艇を48台、これが多ラングリミットさんの販売台数です。行動力とアイデアの勝利と言えるでしょう。ダイビングショップがマリジェットの販売に参入してきたということは、ある意味でとてもショッキングなことです。しかし数々の斬新なアイデアは、十分に刺激的で興味深いものです。

大阪府堺市 泉ポート(杉生若一社長)

大阪湾に沿って南北に走る臨海道路。その道路に面した一画に、泉ポートさんのお店があります。創業17年来、奥さまの綾子さんとお二人でご商売をしてきましたが、今年からヤマハ肥後橋店で一年間研修してきたご長男覚さん(20)がスタッフに加わり、より充実したサービスで再スタートを切ったところ。

現在の主力商品は、タックル23をはじめとするフィッシングボート。来シーズンも同じくタックル23、FR25などのフィッシングボートをもって、いま、積極的なご商売の展開を考えているところです。

免許教室から将来のビジネスチャンスが生まれる

「新聞や雑誌を読んでも気がつきませんが、いまは全国的なマリフレジャーブームといえますね。うちの売上げをとってみても、2〜3年前から目立って伸びています。プレジャーボート主体のマリンストアにとって、嬉しい傾向にあるわけです」(杉井社長)

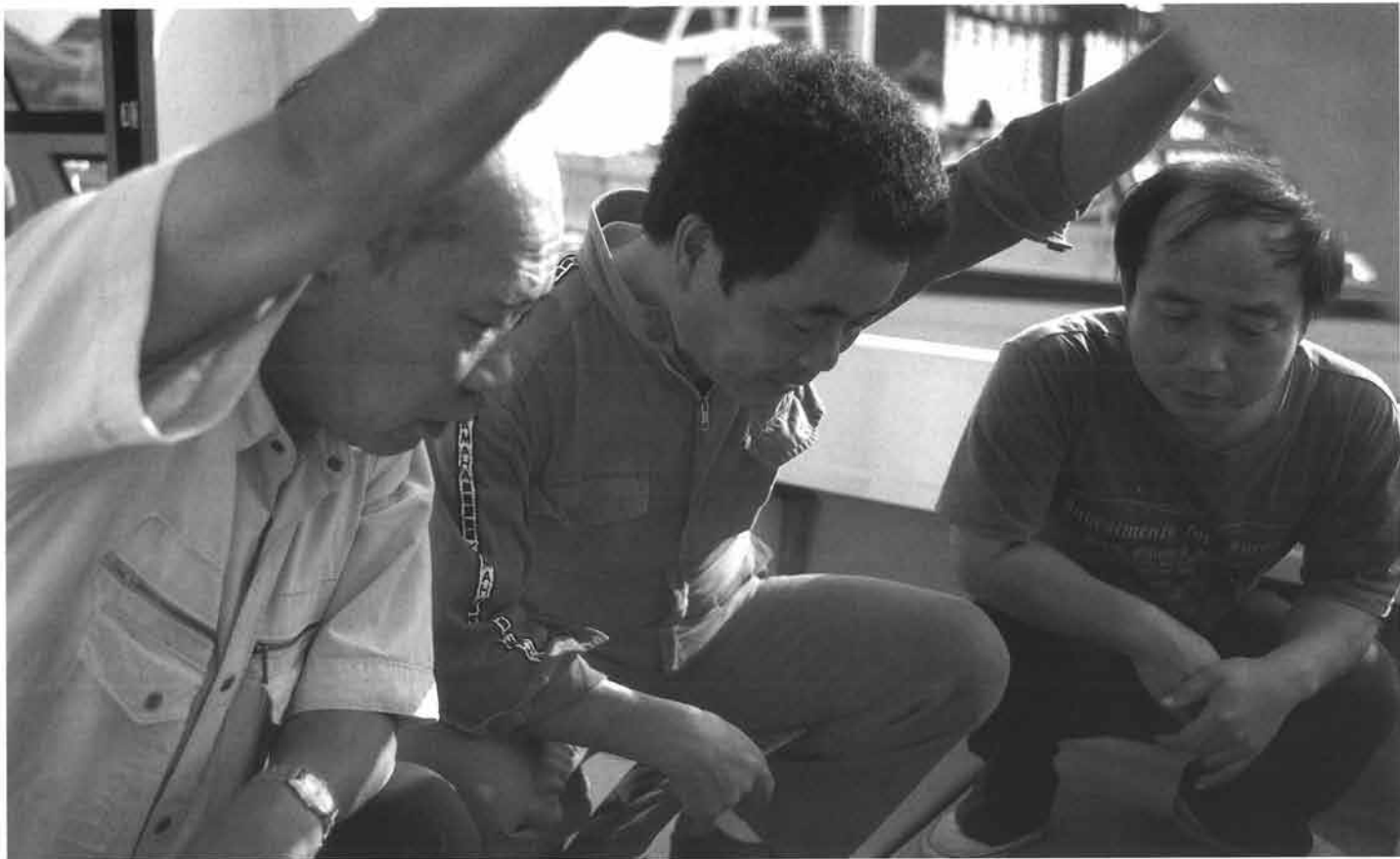
このような状況を背景に、泉ポートさんでは新規客の獲得こそが、今後のご商売のポイントになるだろうと予測します。

「どう考えると、今、この時期にこそ、商売の下地を作ることが大切。うちでは免許教室を主眼においていきますが、ただ事務的に処理するのでは意味がありません。免許を取

【プロフィール】今年で54歳になる杉生岩「さん」は17年前に、泉ポートを創業。以来、お客さまとのコミュニケーションを大切にしたいご商売を続け、着実に業績を伸ばしている。昨年3月には、隣設していた二輪ショップを買い受け、いまはマリジェットなどのシヨールーム、また商談コーナーとして使っている。ヤマハ肥後橋店で一年間、サービスの研修をしていたご長男の覚さんも今年からスタッフに加わり、来シーズンに向けての準備も万端。これからますます伸長のムードがある。

得しようとするお客さんは、すべて、ボートを購入するお客さんだと思つて接するわけです」(杉井社長)

免許受講者募集のちらし、パンフレットなどのツール、年に数回出す新聞広告、受講者のリスト作り……、それらの中に、大きなビジネスチャンスが隠されているといえるでしょう。そして、夏が過ぎた、10月から3月までのこの期間こそが、新規ユーザー獲得のチャンスであり、次年度のご商売の足固めの準備期間であると付け加えてくれました。



代替需要の促進のために、お客さんとのコミュニケーションは欠かせない。見込み客に'89ニューモデルの説明をする

こまめな点検・整備サービスが代替需要促進に！

冬場は夏に比べて一見暇そうに見えるのですが、泉ポートさんは、決してそうではないと言い切ります。「うちの顧客（ボートオーナー）の数はいま約300人。そのお客さんたちのボートの点検整備で毎年休む暇もないほどです」（杉生社長）。アフターサービスもこの時期の大切な要素です。

「一人一人のお客さんと、いつまでもつき合っていきたいですからね」という杉生社長。泉ポートさんのお客さんは、大阪府全域と奈

来季の課題はユーザーの組織化——計画は1年の時期を煮詰める

漁師の息子として生まれた杉生社長は、豊富な釣りの知識の持ち主でもあります。ボートフィッシングだけでなく、陸からの釣りにについても詳しく、それらの知識を活かして、お客さまとのコミュニケーション作りを進めていきたいといいます。

「いままで、単に来店されたお客さんに対して、ポイントや仕掛けについてアドバイスする程度だったんですが、これからはもっと多くのお客さんに海の楽しさ、釣りの楽しさ

良県などですが、電話一本でどこへでも修理点検のために出かけていきます。

「今までそれを1人でやってきたんですが、今年からは息子と2人。より充実したアフターサービスができると思いますよ。息子さんの覚さんはいま20歳。まだ世代交替というわけにはいきませんが、杉生社長の期待を担って、これからぐんぐん伸びていく、泉ポートさんのホープです。」

を知ってもらうために、色々と考えていかなければならないと思い始めてるんです」

そこで杉生社長は、お店を基盤としたフィッシングクラブ作りを思いつきました。

「来シーズンの課題として、これから煮詰めていきます。ひとことではいえないユーザーの組織化ということになるんでしょうけれど、確かに商売に結びつけばそれに越したことはありません。だけど一人でも多くの人がボートの楽しさを知ってくれば、この商売、やりがいが一層でくると思うんです」

また、フィッシングクラブのほか、若い人達を中心としたマリッジットのクラブも作りたいと語ってくれました。いまは年間3、4台ほどの販売量ですが、若い覚さんをお店に迎えたことで、マリッジットはこれから力を入れた商品のひとつだということです。

昨年3月、隣にあった二輪ショップを買い受けてショールームを新設した泉ポートさん。白地のボードに紺色で描いた、イズミボートの看板が、ショールームの上に立っています。「ここは交通量も多いし、この看板はよく目立つようですね。飛び込みでお店を覗いていられるお客さんも増えています」

来シーズンに向けての準備は万端、今後の成長が楽しみなマリジストアさんです。



交通量の多い臨海道路に面した泉ポートさん。飛び込みの新規客もまますまあるという



熱海で毎秋おこなわれる「ジャパンカップオ
フショアシリーズ」には今年、国内の精鋭ク
ルーズー31隻が参加。自艇の存在を誇示する
バトルフラッグもなかなかサマになってきた



10月7日から琵琶湖で開催されたミニトン全日本には過
去最高の36隻が集まった



YSAのビッグイベント、ヨットウィークでは111隻が
山口県光市を舞台に熱戦をくりひろげた

「マリンスポーツ」というと、かつては夏の
代名詞のように使われていましたが、ドライ
スーツの普及などによって、季節を選ばない
オールシーズンのスポーツとして定着してき
ました。

そして、むらのない安定した風に恵まれる
これからの時期は、ヨットレースのベストシ
ーズン。クルーズーでは、さきのニッポンカ
ップやビッグボートシリーズ、ディンギーで
はNTTが冠スポンサーについたオリピック
クウィーク、そして、'89年のワールドの開催
地である津（三重県）での全日本470など、ビ
ッグイベントが目白押しです。

ヨットという道具を使っているの楽しみは、も
ちろんレースだけではありません。ディクル
ーズ、アイランドクルーズ、太平洋横断、は
たまた世界一周など、船の大小や技量、また
経済的なことを考慮したうえでも、たくさん
あります。そのなかでレースを愛好するセイ
ラーは、全体のうちではまだほんのわずかに
すぎないようです。

マリンスポーツを普及するにあたって、ヨ
ットレースは今後も一番の推進力になるに違
いありません。

身近かなところではYSAのフリートレース
やヨットウィーク、さらにはヤマハ各販売会
社が主催するレース、そしてヨット協会や日
本外洋帆走協会など諸団体のレースなど、そ
うした「ヨットレース」を大いに活用して
みてはいかがでしょう。

ヨットレース 秋本番

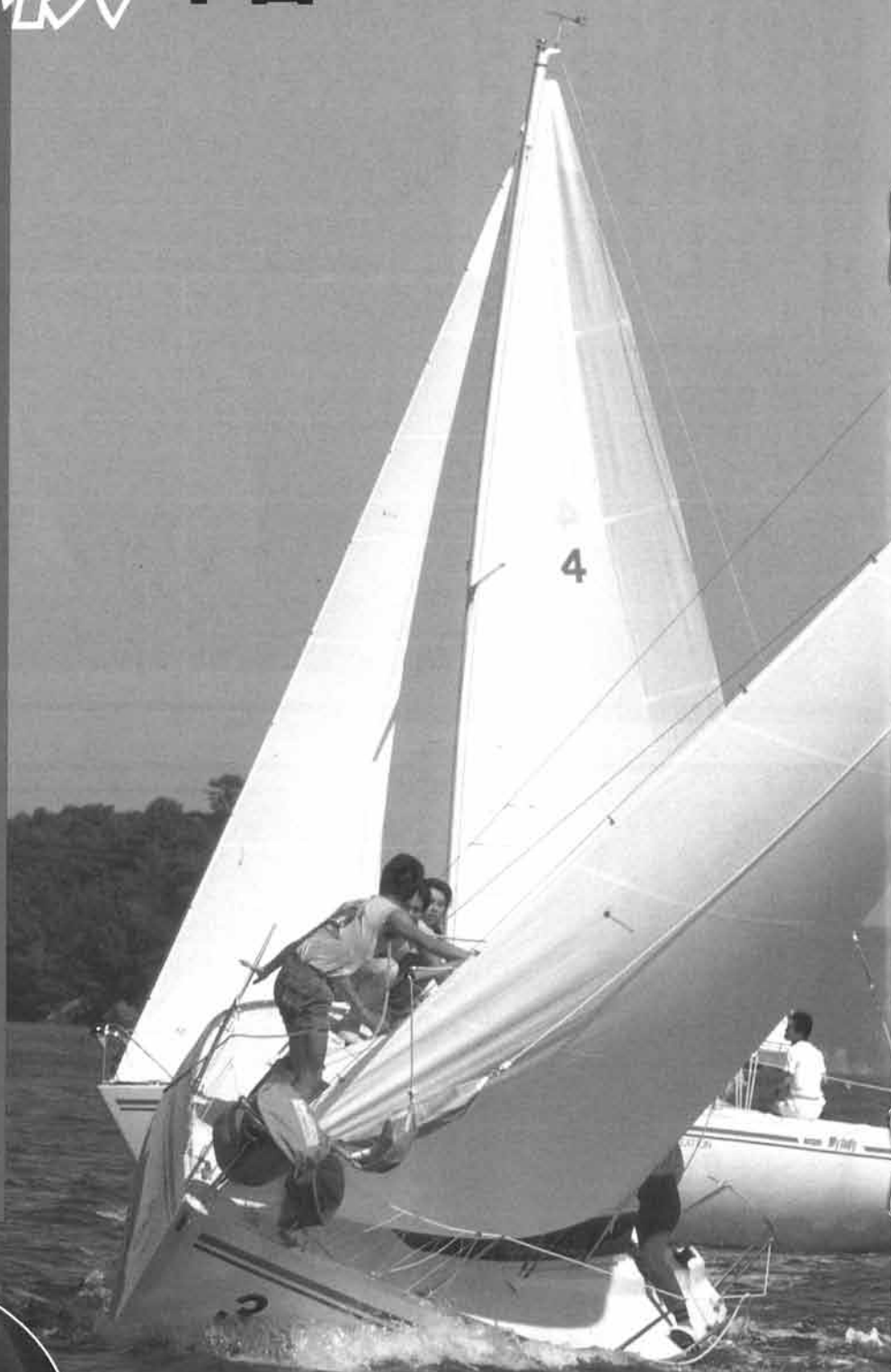
オリンピック、ソーセージ、島まわり。これらはヨットレースでよく用いられるコーススタイルです。もちろん、四面を陸で囲まれている海が舞台ですから、法規を守っている限り、コース設定は自由自在。来年の4月22日にスタートする『オークランド〜福岡ヤマハカップ1989』はニュージーランドからフィジー、そしてグアムを経由して福岡を最終フィニッシュとするもので、総距離は約5,500マイルにもおよびます。

そうした本格的オーシャンレースは、それを見守る者たちにも、大航海時代的な海洋ロマンを感じさせてくれますが、一方では、アメリカズカップに代表される同型艇種2艇による「対1」のヨットレース——マッチレースも人気を集めています。

9月29日から10月2日までの4日間にわたっておこなわれた「ヤマハカップ鳥羽マッチレース」には、東京、静岡、京都などから8チームが参加。均一にチューニングされたヤマハ25マイレディを使用して熱戦がくりひろげられました。

マッチレースで多く採用されるコースは、オリンピックコースかソーセージコースで、鳥羽の大会でも往復約2マイルのソーセージコースが用いられました。

「対1」で闘うマッチレースは、複数のヨットによっておこなわれるフリートレースに比べ、対戦相手が明確なこと、セイリング技術はもちろん、タクティクスやルールをも自在に利用できなければ勝てないことなど、「見るスポーツ」としても大いに注目を集めており、11月15日から葉山沖（神奈川県）で開催される「ニッポンカップ」は昨年到现在NHKで放映(11/19・20)される予定です。



レース用と陸上用とユニフォームを着わせるオシャレなチームもあった(鳥羽マッチレース)

鳥羽マッチレースでくりひろげられたエキサイティングなセイリングシーン

ヤマハカップ鳥羽マッチレース'88
人気のマルチレース、鳥羽で開催



9月29日から10月2日までの4日間、三重県・鳥羽において「ヤマハカップ鳥羽マッチレース'88」が東京、大阪などから8チームを集めて開催されました。マッチレースと言えはすぐに思い浮かぶのが、あのアメリカズカップですが、日本国内でもここ数年、急速に人気が高まりつつある、1対1のエキサイティングなヨットレースです。風光明媚な鳥羽の海を舞台としたこのレース、ヤマハ(株)、ヤマハ発動機(株)、飛鳥建設(株)、ヤマハレクリエーション(株)がオフィシャルスポンサーとして万全な体制でサポートし、またコンディションも51.6%の風に恵まれるなど、各チームとも思

う存分にレースを満喫しました。使用艇はYAMAHA-25マイルディレィB LTDで、均一にチューニングがほどこされた6艇が用意されました。優勝は、京都から参加したスノッピーコネクションで、このチームには副賞として、はいむるぶしツアー招待券が贈られました。また、同時に企画された観戦ツアーも多数の参加があり仲間のチームを応援したり、観光をたつぷりと楽しんで、こちらも大好評でした。この鳥羽マッチレースは、今後も定期開催される予定で、ますます白熱したイベントになることでしょう。

ヤマヨットウィークが盛大に開催！
デインギーイベントの締めくくり



●第14回ヤマハヨットウィークin光
●第14回シーホッパー級全日本選手権大会

10月8日から10日までの3日間、山口県の光市、室積海岸において、第14回ヤマハヨットウィーク、第14回シーホッパー級全日本選手権大会という2つのデインギーイベントが同時開催されました。今年のヤマハデインギーイベントは、この大会の大きなイベントには、1艇のデインギー、123名の選手、そして選手達を応援する家族や仲間、役員、運営スタッフなど多くの人々が集い、この一年に一度のイベントを盛り上げました。レースは各クラス全4レースが行われ、大会期間中は晴天に恵まれ、風もま

ずまずのコンディション。参加したセイラーたちも満足いくレースを展開していました。中でも全日本選手権でもあるシーホッパークラスには84艇がエントリー。他のヤマハクラス艇に比べても大フリートとなり、見応えのあるレースをくり広げました。優勝は関西支部の松下隆一さんが勝ちとり、西日本選手権、京都国体に続いて三冠を達成しました。盛り上がるデインギーセイラーたちの支援を受けて、ヤマハでは来年もさまざまなイベントを企画してまいります。お客さまとともに、どうぞご期待ください！

第10回●ミニトン全日本選手権大会

秋めく琵琶湖にスモールボートが集合

10月7日から10日までの4日間、日本ミニトン協会主催による、第10回ミニトン全日本選手権大会が琵琶湖は大津市堅田にある、レークウエストヨットクラブをホームポートとして開催されました。1979年11月に第一回大会が開催されて以来、今年で10年。琵琶湖での大会は第6回以来4年ぶりとなりました。この10年間、ミニトンは、一時期低迷を迎えたこともありましたが、艇の性能や選手の技術など着実に進歩し、その人気を裏づけるかのように、今大会も活発なエントリーが見られました。レーサー（1OR）クラスに15艇、クルーザークラスに21艇、計36艇が天気と風に恵まれた琵琶湖で熱戦を繰り広げました。

大会は、オリンピックコース3レースと、15マイルのショートディスタンス、30マイルのロングディスタンスの全5レースで競われ、クルーザークラスでは、翡翠（3962/レークウエストヨットクラブ）が、5レース中、3レースを制し総合1位を獲得しました。



また、1ORクラスでは、やはり5レース中3レースを制したCREEK V(3752/レークウエストヨットクラブ)が総合で1位に輝きました。

21世紀の東京湾ウォーターフロントはこうなる！ 海上浮遊環境都市(MARINAS)構想が進行中

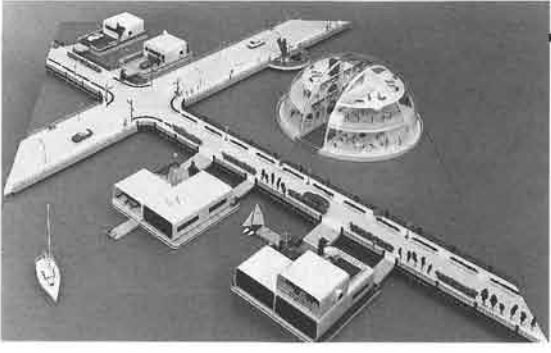
ヤマハ発動機(株)と(株)間組は、島田幹R&D事務所と共同で、海の持つ資質を最大限に生かし、ロマンあふれる快適な居住環境を創造するために、海上浮遊環境都市研究会を設けて研究を進めてきました。そして、実現への具体的な構想がついに来たと、このほど発表が行われました。

「海上浮遊環境都市(MARINAS)」は、海の持つ、おらかさや美しさ、うるおいや静けさなどの情緒的效果、オープンスペース効果、親水効果をもう一度都市環境の中に蘇らせ、展開するための埋立てによらない海上都市であり、海からのアプローチによる、21世紀東京湾ウォーターフロント開発へのシナリオです。

AS)は、総開発水域面積3770ヘクタール(東京ドームの約80倍)、定住人口5万人を想定しています。メゾネットタイプの高層住宅(4LDK)を4400万円、また一戸建て住宅に相当するフロートリングハウス(5LDK)を5000万円程度で供給することが可能です。

「海上浮遊環境都市(MARINAS)」は、総開発水域面積3770ヘクタール(東京ドームの約80倍)、定住人口5万人を想定しています。メゾネットタイプの高層住宅(4LDK)を4400万円、また一戸建て住宅に相当するフロートリングハウス(5LDK)を5000万円程度で供給することが可能です。

ヤマハ発動機(株)としては、新しいコンセプトから生まれた親水性住居(フロートリングハウス)の開発を通して、都市生活者の新しいライフスタイルへポートと共にある生活)を提案すると共に、フロートリングハウスの供給によって都市問題解決の一翼を担い社会に貢献するという立場から、「海上浮遊環境都市(MARINAS)」構想を推進しています。



from SALES



●プレミアムポスター



●告知ポスター

《輸入艇リザーブセール》
ツール、プレミアムが揃いました。

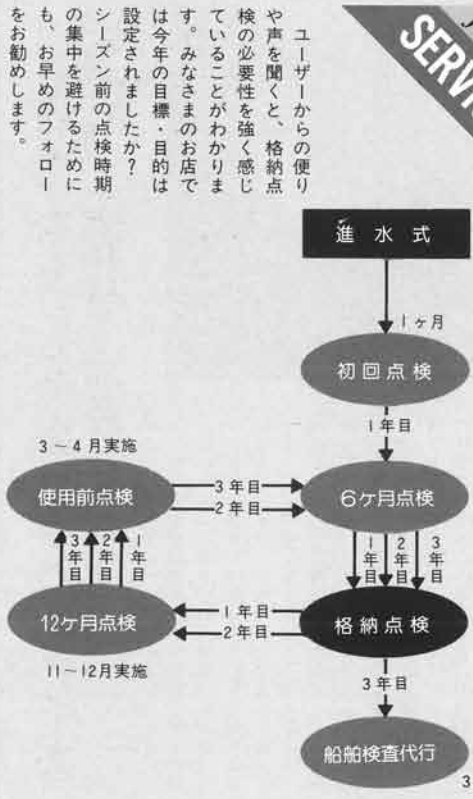
ヤマハの輸入艇、「トロージャン」「フォーミュラ」「ジャヌー」「CAMI」を対象としてリザーブセール・キャンペーンを、来年3月31日まで展開いたします。これは期間中にご成約いただいたお客さまに、それぞれの艇の故郷であるアメリカ、フランス、カナダから、素敵なプレゼントをご用意しました。キャンペーンツールとしては、告知ポスター、リザーブセールDMセット(案内封筒、'89モデルカタログ小冊子、資料請求はがき)、プレミアムポスターをご用意しました。併せてご利用ください。

※詳しくは担当営業マンまでお問合せください。



●DMセット

★格納点検はお早め！



●第24回オリンピック・ヨット競技 強風に見舞われた釜山で日本選手が健闘

9月20日から28日にかけて、韓国・釜山で開催された第24回オリンピックのヨット競技は、470級男女、ソリング、スター、トナーード、FD、フィン、デイヴィジョンIIの8種目が行われました。日本から参加した選手は、スター級を除く7種目に出場しました。大会期間中は全般的に風が良く吹き、特に第5レース、第7レースでは、平均12%、最大15%という強風でおまけに5mもの波と、かなりの荒れ模様だったのです。

リタイヤ艇も多かった今回のレースで健闘を見せたのが、男子470級とソリング級の日本代表です。男子470級(中村健次・高橋雅之)は29艇中総合12位、ソリング級(小松一憲・花岡一夫・池田正)は20艇中総合11位という結果で

した。世界のトップセイラー達と互角とも言えるレース展開を見せてくれました。また、とても残念だったのが、女子470級(野上敬子・斉藤愛子)で、上位入賞が確実視されていたのですが、斉藤選手が体調を崩し、21艇中17位という成績に終わりました。

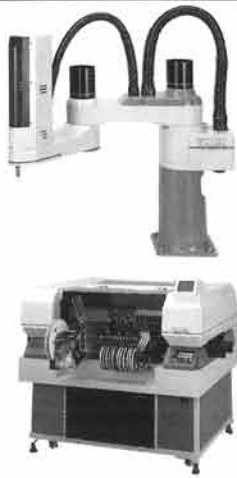
なお、今回ヤマハでは、ヨット競技に出場する全選手にドライスーツをはじめウェア類を提供したほか、470級の日本男女の艇の建造を担当しました。さらに、ヤマハ発動機の小松一憲・花岡一夫両氏がソリング級に選手として出場し、サポートとしてヤマハ東京の竹島正則、ノースセイル・ジャパンの飛内秋彦の両氏が、それぞれ艇体メンテナンス、アシスタントコーチを務めました。

YAMAHA WORLD

⑤

産業用ロボット

FA(ファクトリーオートメーション)化を推進する



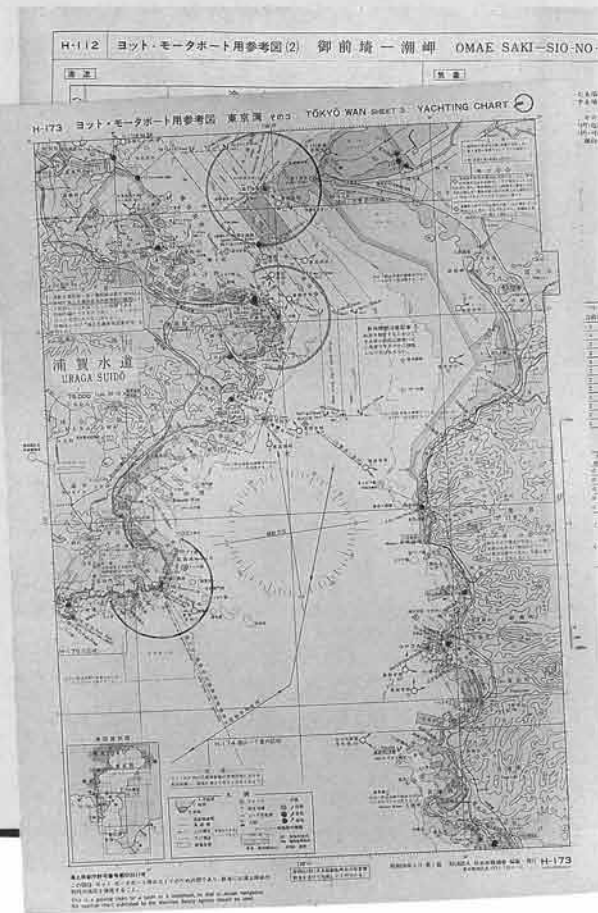
産業界は、1980年を、日本のロボット元年」として産業用ロボットの開発に取り組み始めました。危険な作業や単純な仕事から人間を開放し、同時に個々の人間が備えている高い潜在能力をより有効にひき出そうというのが、その狙いです。

実はヤマハでは、これよりもさらに数年前から、この産業用ロボットの研究・開発に取り組んでいました。というのも、モーターサイクルをはじめとするさまざまな製品の生産技術の向上のために、いち早くロボットの開発・導入を進める必要があったからです。

1976年にはヤマハ内でその性能と信頼性を十分に実証したアーク溶接ロボットを、そして、1981年にはエンジン組み立て作業等に活躍していた多関節ロボット、CAME(カメ)を、さらに1985年には一段と軽量、コンパクト化した小型CAMEと電子部品プリント基板の足切りロボット——と自社製品生産のためのロボットから、完全な「商品」としての産業用ロボットへ、商品構成の充実と販売網の拡充を推進してきました。

こうして、現在ではさまざまなヤマハ産業用ロボットが国内外の多くの製造現場で活躍しているのです。単純作業の自動化に威力を発揮する単軸ロボット・FLIPシリーズ、平面および水平多関節ロボット・CAME・YKシリーズ、直交型ロボット・MXYシリーズ、さらに足切りロボットやチップマウンターなどのシステム商品、多重パーツファイナダー、ロボットコントローラー・RCHシリーズ……などの豊富な商品群が、フォード・スペイン工場をはじめ、アメリカ、フィンランド、ドイツ、デンマーク、イタリア、フランス、イギリスなどの国々に活発に導入されています。

長年にわたるモーターサイクルの生産によって培われた独自の技術から生まれたものだけに何よりも剛性の高さが大きな特徴です。10年以上にわたる研究・改良の積み重ねに世界のユーザーから大きな信頼が寄せられています。



番号	掲載水域	縮尺	発行日	価格
H-111	東京湾～御前崎	1/50万	62-7	1,200円
H-112	御前崎～潮岬	1/50万	54-3	1,200円
H-171	東京～千葉	1/7.5万	62-7	1,200円
H-172	横浜～木更津	1/7.5万	62-12	1,200円
H-173	浦賀水道	1/7.5万	62-3	1,200円
H-174	館山～千倉	1/7.5万	61-6	1,200円
H-175	城ヶ島～佐島	1/3万	60-7	1,200円
H-176	長者ヶ崎～江ノ島	1/3万	54-9	1,200円
H-177	城ヶ島～熱海	1/12.5万	63-6	1,200円
H-178	城ヶ島～大島	1/12.5万	61-3	1,200円
H-179	熱海～下田	1/12.5万	61-3	1,200円
H-180	下田～式根島	1/12.5万	61-3	1,200円
H-131	伊勢湾	1/15万	59-3	1,200円
H-185	三河湾	1/7.5万	59-3	1,200円
H-186	伊良湖水道～的矢	1/7.5万	59-3	1,200円
H-187	的矢～赤石鼻	1/7.5万	59-3	1,200円
H-135	日ノ御崎～友ヶ島水道	1/10万	60-3	1,200円
H-136	蒲生田岬～鳴門海峡	1/10万	60-3	1,200円
H-137	大阪湾南部	1/10万	60-3	1,200円
H-138	大阪湾北部	1/10万	63-6	1,200円
H-139	播磨灘北部	1/10万	62-3	1,200円
H-140	岡山～赤穂	1/10万	62-3	1,200円
H-141	高松～小豆島	1/10万	62-3	1,200円
H-142	播磨灘南部	1/10万	62-3	1,200円
H-146	尾道～今治	1/12.5万	63-3	1,200円
H-147	呉～松山	1/12.5万	63-3	1,200円
H-148	広島湾	1/12.5万	63-3	1,200円
H-149	柳井～郡中	1/12.5万	63-3	1,200円
H-161	敦賀～高浜	1/12.5万	62-3	1,200円
H-162	経ヶ岬～成生岬	1/12.5万	63-6	1,200円

ヤマハ・マリンレディを募集!

来シーズンのヨット、マリンジェットのイベント・スタッフとして、「ヤマハ・マリンレディ」を募集いたします。なお、ヤマハ・マリンレディに、来年1月～10月のマリンスポーツイベントのお手伝いをしていただくほか、6月中旬にグアム・コス島にご招待いたします。みなさまのお客さまにもお勧めしてみたいかがでしょうか。

- 募集期間 / 1988年11月10日～12月10日
- 募集人数 / 若干名
- 応募資格 / 未婚の女性
- お問合せ / 東京都港区六本木3-1-25 六本木シティビル内4F
- お問合せ / ヤマハ・マリンレディ募集係 ☎03-583-2509

DATAが語る 消費者動向...⑥ 4人に1人が4枚以上のクレジットカードを所有

●欲しいのはモノよりも“健康”

ここ数年の地価、株価の高騰により生まれた多くの新しい資産家、新興資産家たちには、派手で享乐的な消費傾向が見られる——日経流通新聞が実施した「第29回消費者の生活と意識調査」(対象/首都圏30km以内に住む1000万円以上の所得税を納めた人々)によれば、消費景気をリードしているのはや

はり一群の高額所得者たちのようです。

調査の中でも興味あるのはクレジットカードの所有・利用状況の項で、「クレジットカードを持っている」と答えた人は全体の66.9%で、このうち4枚以上カードを持っている人が24.2%にも達しています。高額所得者たちには、クレジットカードがかなり普及しているようです。また、利用状況を見ますと、「月に5万円～10万円未満」が最も多く、全体としては10万円未満が7割強となっていますが、30万円以上使う人が6.7%もいて、これはかなりの利用金額と言えるでしょう。

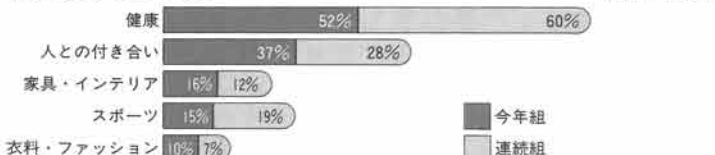
また、消費対象については、今年の高額納税者と前年に続いて連続して高額を納税している人を比べているが、「ふだんお金をかけたいと思っている物」は、連続組が「健康」とか「スポーツ」で物質的なものよりも生活の充足や向上を求めており、今年組とははっきりと差が表れていることがわかります。モノに不自由しない資産家にとって次に手に入れたいものは、「健康」のようです。

MARINE EVENTS CALENDAR (11月～12月)

開催日	イベント名	開催地
10/1-10/2	NTT・1988 オリンピックウィーク兼1988年度第2回470クラス全日本選手権大会兼1988年度全日本トナーード級選手権大会	江の島(神奈川県)
3	第18回八丈島レース	小網代(神奈川県)
3～6	'88ジャパンビッグボート・シリーズ	淡路島(サントピア)(兵庫県)
5・6	第31回紀伊水道レース	紀伊水道(サントピア)(兵庫県)
6	スーパーウェーブカップ第4戦	小網代(神奈川県)
12・13	'88モーターボートスピード記録会	鹿島(茨城県)
13	NORC玄海支部'88ポイントレース第8戦	博多湾(福岡県)
11/13-19-20	第6回オータムシリーズレース	三河湾(愛知県)
13・20	オールジャパンバスクラシック/オールジャパンバスクラシック	河口湖・13日(山梨県) 琵琶湖・20日(滋賀県)
13・20	琵琶湖チャンピオンカップシリーズ(第1～第4戦)	琵琶湖(滋賀県)
15～20	'88ワールドカップマッチレースセーリングシリーズ/三洋証券・ニッポンカップ国際ヨットマッチレース	葉山(神奈川県)
19	第26回小網代カップレース	小網代(神奈川県)
19～23	1988年度第17回全日本470級ヨット選手権大会兼1989年470級世界選手権大会予選会	津(三重県)
27	オータムシリーズ第3戦	沼津(静岡県)
12/3	第16回芦ノ湖グリーンカップレース	芦ノ湖(神奈川県)
26～	シドニー～ホバート・ヨットレース	シドニー(オーストラリア)
末	第5回ジャパン・グナムヨットレース	小網代(神奈川県)～グナム
末	東芝国際ヨットマッチレース	佐島(神奈川県)

●お金をかけたい項目

(回答/402人)



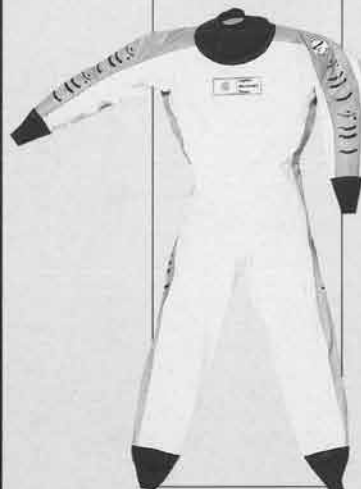
●1カ月のクレジットカード利用状況

(回答/402人)



from APPAREL

ヤマハマリンウェアがオリンピックの大舞台へ!



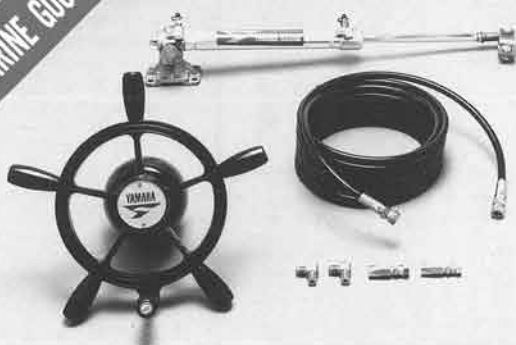
4年に1度のスポーツの祭典“オリンピック”。そのヨット競技が9月20日から28日にかけて韓国の釜山で行われました。注目の日本選手団は、メダルにこそ手が届きませんでした。男子470級で11位、ソリング級で10位という健闘ぶり。また他のクラスでも、成績こそ振わなかったものの、強風が吹き荒れる釜山の海を舞台に頑張りました。

ヤマハでは、これらの日本選手に対して、ドライスーツをはじめ、ライフジャケット、ポロシャツ、ウィンドブレーカーなど8アイテムのウェア類を提供しました。いずれもヤマハ独自の“デルマカット”、“4DMカッティング”など優れに縫製を取り入れたものばかり。ヤマハの長年にわたるノウハウから生まれたウェアは、オリンピックという大舞台で、充分に大役を果たしたといえそうです。

ヤマハは、今後も世界の海へ果敢にチャレンジしていきます。みなさまの温かいご声援をお願いします。

from MARINE GOODS

手動油圧操舵装置が新しくなりました



指1本の力で、300～500kgの推力を得られる手動油圧操舵装置。油圧式で波の衝撃も吸収されるため、操船はラクにできます。メンテナンスも油量チェックだけで簡単です。

標準現金価格：127,000～156,000円

1989年モデルはデザインも一新し、品質もさらに向上しました。みなさまのお客さまに、ぜひお勧めください。

●ボールポストタイプ、ステアリングガイドタイプ、ホールドファーストタイプ、船外機専用タイプの4種類、シリンダ径もφ28とφ35の2タイプが揃っています。

●詳しくはヤマハ部品担当者までお問合せください。

ご利用ください。

各種カタログ

1989年のマリンシーンをリードするヤマハの各種ラインナップ。それぞれのカタログを有効にご利用ください。



※オールカラーです

●ラインナップカタログ

ボート&ヨット、ディンギー、そして船外機、の総合ラインナップカタログです。



- ボート&ヨットカタログ(A4サイズ・12ページ)
- ディンギーカタログ(A4サイズ・6ページ)
- 船外機カタログ(A4サイズ・8ページ)

●1989年ニューモデル 艇別カタログ

注目の'89年ニューモデル4艇種のそれぞれのカタログです。



- SC-38(A4サイズ・20ページ)
- FR-34・34DX(A4サイズ・8ページ)
- SR-25(A4サイズ・8ページ)
- YAMAHA-23II・23II EX(A4サイズ・8ページ)

●ニューバリエーションモデル 艇別カタログ

これまでの人気モデル艇をさらにグレードアップした5艇種と、輸入艇ランパウトのカタログです。



- FR-27II O/B-I/O-I/O DX (A4サイズ・8ページ)
- FR-25 O/B-HT O/B-HT I/O HTB O/B-HTB I/O (A4サイズ・8ページ)
- Star Ace V.II・V.IIs (A4サイズ・6ページ)
- Tackle-23・23DX (A4サイズ・6ページ)
- YAMAHA-14 Sea Hopper II (A4サイズ・4ページ)
- SR-19 BR O/B-CD O/B-CANADIAN (A4サイズ・2ページ)

YAMAHA マリンスポット 訪問 エイトノット 石川県河北郡内灘町千鳥台1-232

マリウェアやグッズが、アイテム別に見やすくディスプレイされています



【プロフィール】石川県河北郡内灘町にある「エイトノット」は今年3月にニューオープンしたアットホームな“シースポーツショップ”です。それ以前は、金沢市内で6年間、お店を開いていましたが、今春、海まで歩いて3分の内灘町に移転してきたのです。ご商売の中心となっているのは、ディンギーとセイルボードで、スクーリングも充実しています。お店の中には、マリウェアやグッズがお洒落にディスプレイされていて、海へ向かう道路沿いにある瀟洒な店構えは、海仲間の話題的的です。



「エイトノット」は、どこからともなく潮の香りがする、そんなお店です



冬対策もばっちり。ドライスーツやセーターのラインナップも豊富です



およそ10坪のこじんまりとしたお店の前には、12艇分のディンギーラックと4台分の駐車スペースがあります。海まで目と鼻の先という絶好のロケーションです

お客様には、コーヒーを無料でサービスしています。テーブルを囲んでマリンスポーツ談議に花が咲きます

世界の海からベストチョイス



カナダ製スポーツランナバウト CAMI SR-19 BR%・CD% CANADIAN



“世界の海からベストチョイス”をスローガンに、名艇とよばれるにふさわしい数々のボート、ヨットをマリンレジャー先進国の欧米各国から輸入をはじめて2年。ヤマハは、お客さまの幅広いニーズにお応えするためにこれまでボートやクルーザーヨットなど数かずの艇種を輸入しています。

SR-19はヤマハのデザインと技術援助のもとに、カナダのボートメーカー・CAMI社(カナディア

ン・エアロ・マリン・インダストリー社の略)が製造したものです。

カナダのシンボルである楓をあしらったマークとカナディアンカラーが、スポーツボートイメージをいっそうひきたてています。またリクライニングシート、スキーロッカーなど、マリンプレイを存分に楽しむための心くばりも万全、パワフルにエキサイティングにボートングをエンジョイしたいというお客さまに、ぜひおすすめください。

ヤマハ輸入艇リザーブセール開催中!

ヤマハでは'89年3月31日までの間“ヤマハ輸入艇リザーブセール”を開催しております。この期間中にご成約いただいたお客さまには素敵なプレゼントを用意しております。ぜひ、このリザーブセールを活用して、お客さまにおすすめてください。(詳しくは本誌P.11をご参照ください)

※詳しくは、ヤマハ販売会社または担当セールスマンまでお問合せください。

FOR GOOD MARINE LIFE!

安全がマリンスポーツの基本です。

- 天気予報を確認して、無理のない航行を。
- 点検・整備を忘れずに。
- 法規やマナーを守りましょう。
- 乗船前に、免許と法定備品の確認を。
- 立入禁止水域や船舶航行の頻繁な水域は避けましょう。

海はスポーツ新大陸

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社